

米国 カリフォルニア州最大の核果類生産者が破産申請

FreshFruitProtal 2023年11月1日

カリフォルニア州のセントラルバレーで最大の核果類生産者であるプリマワオナ社は、10月13日に連邦破産法第11条の適用を申請し、会社の売却を進めることを望んでいる。同社はこの申請に関して、「コストの増加や天候関連の影響など、既存の資本構造を持続不可能にしている重大な逆風」を指摘している。

ロイター通信は、倒産裁判所の文書によると、プライベートエクイティ(投資管理会社)のペインシュワルツパートナーズ社が所有する同社は、約6億7,900万ドルの負債を抱えており、破産して事業を売却する計画であると伝えている。プリマ社は、カリフォルニア州サンホアキンバレー地域にある同社の1万8千エーカー(約7,200ヘクタール)の土地で、モモ、ネクタリン、スモモ、アンズを栽培している。

裁判所の文書によると、買い手が現れない場合、プリマ社は債務再編または事業の清算に軸足を移す。同社は、2019年にジェラワンファームリング社とワオナパッキング社が合併して設立された。裁判所の文書によると、同社は2022年に3億ドル以上を売り上げ、その60%はモモの販売によるものである。

中国 臨海タンジェリンの輸出需要が20%増加

FreshPlaza 2023年11月2日

中国浙江省臨海市^{リンハイ}で生産される臨海タンジェリンの輸出シーズンが9月下旬に始まり、最初の荷がカナダに送られた。8月の生育期に雨が多かったため、タンジェリンの酸味が早く抜け、出荷時期が以前より約1週間早くなったと考えられている。豊富な降雨により、果実が大きくなり、品質の良いものが増えた。

浙江永豊生鮮果実専門協同組合(浙江永丰鲜果专业合作社)は、主に臨海タンジェリンの栽培と販売を行っている。同社の応啓敏(应启敏)氏によると、臨海タンジェリンの輸出需要は近年着実に増加している(以下「」は同氏の発言)。「カナダは弊社の最も重要な輸出市場であり、主に船で輸送し、通常到着までに16~20日かかる。今年はこの市場への出荷量は、前年比20%増の1千トン以上に達すると予想している。海外市場を開拓して安定させるため、産地の価格が変動しても輸出価格は過去5年間比較的安定させている。臨海タンジェリンは、適度な甘みと酸味があり、果皮が薄く、果汁が多いことが特徴であり、中間層からハイエンドの消費者を対象に販売され、ヨーロッパ市場及び米国市場のニーズに合っている。」

同氏は、臨海タンジェリンはカナダのほかロシアや中央アジアなどにも輸出されており、11月3日には初めて北朝鮮に出荷されると紹介した。最初の荷は約25トンで、市場テストを行う。「臨海タンジェリンの輸出可能性は大きい。弊社では輸出用に、様々な市場の消費条件に基づいて、様々な等級の果実を選んでいる。」

今シーズンのタンジェリンの生育について同氏は、「今年の前半は天候が良く、害虫や病気もなく、生産量は昨年に比べて約15%増加した。果皮の色は鮮やかであり、ブリックスは約13度で昨年よりわずかに高い。産地での価格は昨年とほぼ同じで、慣行栽培の高品質の果実が12~16元/kg程度(1元=約20円)である。栽培技術の水準が年々向上し、地域の微気象条件が良好なため、品質は近年比較的安定しており、市場で好評を得ている。現在、販売は概ね順調である」と述べた。

「来週は臨海タンジェリンの販売の最盛期に入る。国内販売は日量約15トン、輸出は週5~6コンテナ程度である。天候が良ければ、12月末までに95%の果実が売れる見込みである。」

同協同組合は、「正鳳」(正凤)^{Zheng Feng}をブランドとして使用し、臨海タンジェリン、臨海ヤマモモ、及び様々な小果実を専門としている。約1千ヘクタールの果樹園と約3千平方メートルの加工場を有し、年間出荷額は約6千万元である。この協同組合は中国のグリーンフード認証を取得しており、ヤマモモの保存技術は特許を取得している。主な販売エリアは、北京、上海、中国東北部などであり、販売チャネルは、オンライン販売、スーパーマーケットの実店舗、農業物産展、ビジネスギフト、卸売市場等である。